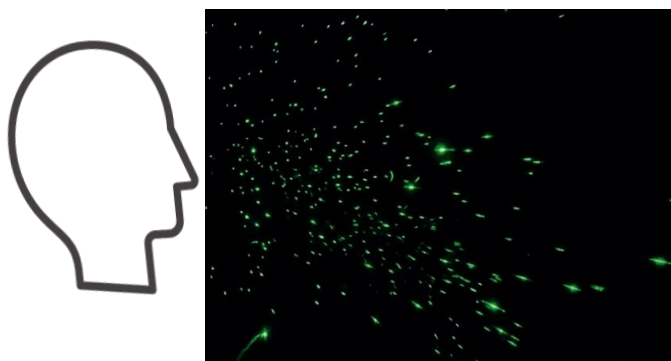


サージカルマスクの有用性

Nature Medicineにサージカルマスク着用の効果を評価した研究が掲載されました。(COVIDではない) 季節性コロナウイルス、インフルエンザウイルス、ライノウイルスに感染した患者さんに協力してもらい、サージカルマスクの有無で呼気ウイルス排出量が変わるかどうかを調べています。

会話だけでも周囲には飛沫が飛散しています(図1)。排出されたドロップレット(飛沫; 5µm以上)とエアロゾル(5µm以下)のなかのウイルスを定量したところ、これら3種類のウイルスでそれぞれ程度の差こそあれ、サージカルマスクを着用すると患者から出るウイルス量が減少したという結果でした。本研究においては、(COVIDではない) コロナウイルスが最もマスクの効果が高く、マスク着用で呼気ウイルス量はドロップレット、エアロゾルともに0となっています(図2)。

図1：会話時に飛散している飛沫・エアロゾル
(N Engl J Med. 2020)



現在、当院職員はリスク軽減のためサージカルマスクの着用をお願いしております。当院の診療時リスク評価ではお互いがマスクをしていれば低リスクとなり、たとえ相手がCOVID-19陽性患者であっても自分は濃厚接触者には該当せず、14日間の就業制限にはあてはまりません。

今回紹介した研究はマスク着用の効果の一例ですが、マスクを使用することによりウイルス排出量はかなり軽減できることがわかります。医療者をCOVID-19感染から守るため、我々自身がマスクを着用し、同僚や周囲の人、患者さんにも積極的にマスク着用をお願いしていきましょう。

図2：季節性コロナウイルス

